

【オープニング】

「淫靡な魔力を感じる塔だな……」

性戦士レイヴンは大陸中央に突如として現れたサキュバスの塔を見上げていた。

その塔は交通の要所に堂々とそびえ立ち、近くの都市から男性をさらって性奴隷として飼ったり、街道を通る旅人や商人らを襲撃しているという。

最初はただ目立つ場所に存在するというだけであまり危険視はされていなかったが、返り討ちにされた性戦士と、人さらいにあった被害者の数が膨大になっていったことから、その所見は覆されることになった。

性戦士を送り込んで塔を壊滅させようという試みは何度も行われたが、すべて失敗に終わってしまっていた。被害は長期化し、一部の市民の間で終末論的な噂が立ってしまった。

あの塔には淫女王が降臨していて、大陸の人間はみな性奴隷として飼われてしまう！
もうだめだ。早く別の大陸に逃げ出さないと。

いっそのこと自分から淫魔に身を捧げて、性奴隷に堕ちた方がいいんじゃないか。

その噂は人々の不安を煽るには十分なもので、少数の人はパニックを起こし政府に説明を求めた。塔が大陸最大の脅威として認識されるようになるまで、そう時間はかからなかった。

ギルドの魔術師も塔に関しては様々な仮説を立てた。噂通りに淫女王が降臨がしているのではないかと、巧みな罠によって脱出が不可能になるのではないかと、内部に淫界へと通ずるゲートがあるのではないかとといった仮説だ。

市民の騒ぎ声を受けた政府は騒ぎを鎮めるために本格的な調査を始めた。塔の周囲に魔術師団を遣わしてを観測していくと様々なことが明らかになった。

「見てくださいよこのデータを、明らかに塔の全体魔力量が揺らいでいます。中にワープゲートがあるに違いないですよ」

魔術師らの外部調査によれば、塔の中には異界へとつながるゲートが存在していて、そこから無限に淫魔が出現していることが判明した。

どうやら塔は淫界からの襲撃拠点であるらしく、脅威度は近年で最も深刻なレベルに定められた。淫魔がこの世界にどれくらい戦力をつぎ込んでくるかは定かではないし、既に多くの被害者が出ている。早急に塔に踏み込んでゲートを破壊し、ボスを討伐しなければ

ならない。

「特に強そうな敵がいるようには見えないが……」

性戦士としてはトップクラスの実力を持つレイヴンは塔に入ると、内部の淫魔の観察を始めた。一目見る感じでは淫魔はみな下級クラスの個体でとても弱そうに見えた。

が、戦闘を重ねるとすぐに侮れない敵と思うようになった。塔全体の放つ魔力がそうさせるのか、戦闘中にとにかく理性を失いやすいし、思考に霞がかかったようになり判断を誤りそうになってしまった。さらに各個体は致命性のある何らかの特殊能力を持っていた。

もしこの塔の内部で上位の個体が出たらどうなってしまうのだろうか？ 慎重派のレイヴンは勝ち目のない敵と戦っている予感がしたが、もしそうであっても塔を放置しておくわけにはいかなかった。もし攻撃の手を緩めてしまえば、淫魔たちはもっと自由に都市や街道で人々を襲うことができるようになってしまうだろう。そしてそれは市民の安寧を害し、秩序と文化を破壊することになる。

「一度しっかり準備を整え直す必要があるな」

レイヴンはあらためてこのダンジョンの危険度を最も深刻なものとして捉えたと、冒険者ギルドに報告をするため街へと帰還した。